

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年 2月 27日

事業所名 一般社団法人ハンズハンズ 未来育デイ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			
	2 職員の配置数は適切である	6			配置の基準は満たしているが、利用者が多いとき、発達段階によっては足りないと感じることがある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4		2階にあがる階段は危険なので、そばで見守りながら気を付けて支援している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		毎月の会議、毎日の振り返りに加え、LINEで情報共有する取り組みを始めたことで、より広く職員が参画できるようになった。月1回の職員会を通して児童理解を図るとともに、大きな行事の計画・意見交流ができています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		コロナ禍で、以前行っていた民生委員さんとの交流etc.ができていない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		外部研修に、直接参加は出来ない場合でも、参加した職員からの報告や資料の提示を受けている。月1回の職員会の中で、定期的に研修の機会を設けている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		常勤の職員がその日の利用者の発達段階や課題に応じて、活動プログラムを考えている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		運動系・音楽系・工作系...etc.バラエティに富んだプログラムが組まれている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		定期的に、1人1人の成長している点や課題を職員間で話し合い、活動や課題の計画を立てて支援にあたっている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		役割分担までは及んでいないが、必ず当日の活動内容の確認は行っている。特に支援や見守りが必要な児童については担当を決め、支援にあたっている。	分担していても予期せぬことが起こるので、手の多少空いている人が対応することが望ましい。職員同士で声を掛け合って対応していきたい。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		当日残っている職員間で気づきがあれば共有しており、最近発足した『デイ報連相』でさらに情報共有、共通理解をすることができている。	子どもの様子について話し合うことはあるが、後片付けで終わってしまう日もある。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		保護者の方と共有している活動記録とは別で、その日の活動内容や、特にニーズの高い子の様子については別紙に記録をとり、経過を見たり、支援の検証・改善につなげられるようにしている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		半年に一度、面談を行い個別支援計画の見直しをしている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6				
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6				
21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		共有の機会は少ないが、機械があれば積極的に情報交換をするよう努めている。送迎で顔を合わせた際に、気になる様子があれば確認している。	現在通っている学校や施設間で情報共有がもつとできると思う。	
22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3	現在は医療的ケア児の受け入れを行っていない。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年 2月 27日

事業所名 一般社団法人ハンズハンズ 未来育デイ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	現在行っていないが、必要であれば行う。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		同じ建物内の就労継続支援B型事業所とは密に連携し、卒業後の移行がスムーズにできるようにしている。他事業所への移行時も、移行先の事業所から要望があれば行う。(学校からの引継ぎが行われると思うので。)	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1		
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		コロナが収束すればまたできるようになると思う。現在利用しているお子さんの障がい特性を鑑みると、障がいのない子どもと活動する機会を設けることは、お互いにストレスになることが予測される。行事の際に、保護者だけでなく、ご兄弟にも参加していただけるよう計画していきたい。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	2	こども部会に参加している。	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		日々の活動記録、送迎で顔を合わせた際に子どもの様子を細かく伝えている。気になることがあったときには、電話やメール等で連絡をし、様子を伝え合うことができるようにしている。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6		困りごとの相談に対し、助言を行っている。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に必ず行っている。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	今年度実施した自由参観は、子どもの様子を知ってもらいよい機会になった。仕事もあり仕方がないが、全員の保護者に参加して頂けるとよい。	計画はあったが、コロナの状況により未実施。今年度も計画をし、保護者会を開催できるよう努めたい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	35 個人情報に十分注意している	6			
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
非常時等の対応	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	Youtubeチャンネルで、活動の様子を発信している。	民生委員を招待し、「手をつなぐ会」を行っていたが、コロナ禍によりここ3年は行なうことができていない。少しずつ再開していきたい。
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		月1回の訓練実施で、避難の仕方が身についている。今後も続けていけると良い。防火管理者の指示のもと、非常食の味見をしたり、非常口や消火器の位置の確認をしたりしている。	いざという時にすぐに避難ができるよう、子どもたちが上靴を履く習慣をつけていきたい。(練習中)
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		虐待防止委員会を設置し、定期的に委員会・研修を行っている。毎月セルフチェックシートを記入し、自身の支援を振り返っている。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		身体拘束・行動制限等の適正化に関する委員会を設置し、同意書の内容や利用者の状況等を職員間で周知し、保護者からの同意も得ている。個別支援計画にその旨記載している。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		現在アレルギー対応が必要な子どもは利用していない。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		いつでも閲覧できる場所に事例集を置き、共有できている。	